

## 人権ネットワーク八幡

## NEWS

事務局 〒523-0857 近江八幡市八幡町170(旧八幡教育集会所内)  
 電話 【携帯】 080-2525-7114(高坂)  
 【メール】 Tko.koj1224@yahoo.co.jp

## いとをかし ～第三の場所(サード・プレイス)～

つれづれなるままに 日暮し 駄菓子屋を営む。日々 訪れる子らの姿こそ いとをかし。

タイパ・コスパが叫ばれる中、我が駄菓子屋は、その対極を行く《超ゆる～い》空間。さてさて、今日はどんな一日になることでしょうか。

学校の帰り道。店の戸をガラガラと開けながら(自動ドアなどという粹な物は勿論ない!)

「おばちゃん、ただいま～!」「新しい駄菓子入ったか～?」と手作りの商品棚を一周して確認する子たち。

「おかえりんご!」という我が昭和レトロギャグにも、すかさず「ただいまマンゴー」とキレの良い返しをしてくるオリキキ・チルドレンの常連さんたち。今日のおいしかった給食メニューやら、トピックスをひとしきりしゃべった後、「今日の宿題、超ムズイから、あとから来るわ～」と言って去っていく。



しばらくすると、おこづかい&宿題を持って来店。今日の駄菓子を選び、部屋の中へ。持参したタブレットで宿題を確認しようとするけれど、我が駄菓子屋には仏壇はあるけどWi-Fiが無い。そこでまたまた大騒ぎ。常連さんたちは、慣れたもので「スクショしてるから大丈夫や!」と余裕のヨッチャンで助け合い。

さて、宿題が始まるかと思いきや、まずは駄菓子タイムが繰り広げられる。それでも、ひと口食べては、一問解いて、クラスや学年を越えてワイワイガヤガヤと駄菓子&宿題タイムが流れていく。駄菓子屋のバアバは、よばれたら老眼鏡をお供にしながらお手伝いする程度。

先日偶然、《第三の場所》という言葉を知った。アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグが1989年に提唱した概念で、《自宅や職場、学校とは別に存在する、居心地の良い居場所》を指すらしい。ストレスの多い現代社会において、ストレスから解放され憩うことのできる場所を《第三の場所(サード・プレイス)》というらしい。かつて古代ローマやギリシャの人々は芸術や学問、政治についての議論など幸福を実現するための自由で満ち足りた時間を楽しむ場を《スコレー》と呼んでいたとか。その《スコレー》とは、ギリシャ語で《余暇》という意味らしい。そして、それがスクールの語源。

現代の学校は、「自由で満ち足りた時間を楽しむ居心地の良い場」からかけ離れた存在になってしまったのかなあ…。年度末の忙しい中、せめて、子どもも大人も自分の《第三の場所》を確保して、幸福を実現してほしいと願いながら、今日のお店はこれにて閉店。(SM)

## 所内雑報

## 郵便料金の値上げ!!

前号でお知らせした郵便料金は、2014年～24年までの4回分の値上げ額でした。昨年10月は葉書が63円から85円、定型封筒が84円から110円という大きな値上げ幅でした。

私が子どもの頃(1960年代)は葉書が5円、手紙10円でした。60年後、値段は10数倍になっています。その分、他の物価も上がり、生活も便利で豊かになってきたのでしょうか。今、メディアは「昭和100年」ブームで、昔の懐かしい映像を流しています。腹をへらして貧乏生活を送っていた「子ども時代」に戻りたいと思うこともあります。

しかし、現在の危うい「豊かさ」に、少々疑問を感じる日々です。<ハックション!水漬がまた出てきた。春が待ち遠しい> (TK)

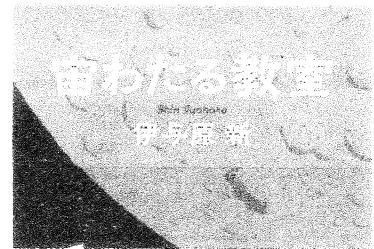
# 読書の草原

「宙わたる教室」 伊予原新・著 文藝春秋社刊 1600円+税

昨年、窪田正孝さん主演でNHK放映され、大好評を博したドラマの原作小説です。

東京のど真ん中、新宿大久保通りに位置する(宇佐照代さんのお店「ハルコロ」の近く)新宿東高校。その夜間定時制課程で学ぶ生徒達はそれぞれにしんどい状況を抱えて通っています。そんな彼等が新しく赴任してきた理科の先生と一緒に「科学クラブ」を立ち上げ、自分達で工夫して教室に「火星」を作り出し、その実験成果を学会で発表して高評価を勝ち取り、JAXAの宇宙研究に影響を与えるまでを描いています。この本を読むと、TVドラマが原作に実に忠実に作られていた事がよく分かりました。

人権教育では子どもの生活背景を知ることの大切さが謳われていますが、この本を読むと改めてそのことを実感します。驚くのは、この小説は7年前大阪の定時制高校で実際に起きた出来事をベースにしていることです。来年、滋人教の研究会あたりで大阪の先生をお招きし、生の「宙わたる教室」の話をお聞かせしてもらえませんか？

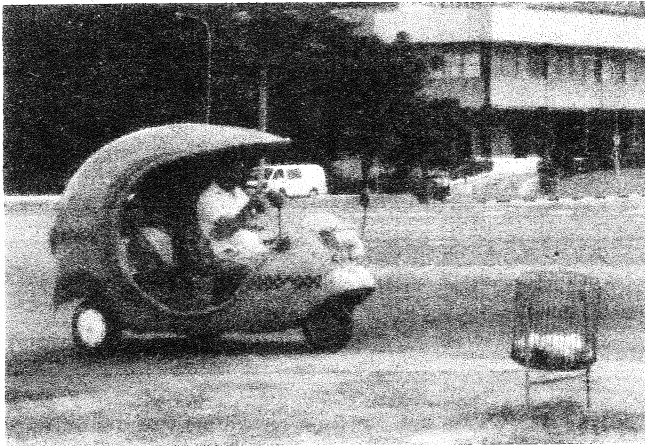


(水来亭平助)

## 海外よもやま話③

「Que sera, sera 心〜配ないさ〜♪←大西ライオンっぼく  
お読み下さい」

風の吹くまま気の向くまま、明日の宿は明日決める、海外放浪一人旅。今日はキューバのお話。



1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると言いますが、ほんま早すぎませんか？2月なんてほんまにあったんかなと思うほどです。そんな慌ただしい日本での日々の中で、ふと思いつくのはキューバのあのゆる〜い雰囲気です。

9時出発のバスが全然来なくて、まだかなあ、時間聞き間違えたかなあ、ここのバス停じゃないのかなあといそいそウロウロしていると、近くにいたおっちゃんが「ここはキューバやで。もっとリラックスせな。9時59分までが9時やで。」とニコニコ笑顔で言いました。

9時45分バスが来て出発。聞いてたのと全然違うバス。2時間遅れて目的地到着。外はもう真っ暗。すぐ宿探しを始めるも泊まろうと思ってたところは潰れていてクローズ。暗闇にたむろする若者たち。これやべーな、どうしようと思ってあせっていたら、たむろしていた兄ちゃんの一人が「うちのばあちゃん、近くで宿やってるから行く？」と声をかけてくれました。そして無事ばあちゃんちの宿(無許可の違法宿)に泊まることができたのでした。めでたしめでたし。ケセラセラ。

次の日、宿の屋上で洗濯物を干して日向ぼっこしていたら「干したら早よ中入って。バシるやんか。」とおばあちゃんに怒られましたとさ(笑)。心〜配ないさ〜。

(K.Kisuke)

## 3月3日

## 桃の節句〜それとも

3月3日は「雛まつり」の日ですが、部落解放同盟の前身ともいえる「全国水平社」が誕生した日でもあります。1922(大正11)年3月3日、京都市岡崎公会堂で創立大会を開き、『水平社宣言』を16歳の山田少年が読み上げた記念すべき日でもあります。 ～「差別を打ち破り、光り輝く新しい世の中にしましょう」～